

第4学年 道徳学習指導案

北広島町立豊平小学校
 T1 湊 純子
 T2 柳川 崇興

日時 平成25年 5月15日(水) 第5校時
 学年 第4学年 26名
 主題名 本当の友達 2-(3) 信頼友情
 資料名 「大きな絵はがき」(東京書籍)

1 主題設定の理由

本主題は、低学年の内容項目2-(3)「友達と仲よくし、助け合う。」が発展し、中学年の内容項目2-(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」となっている。

友達に注意したり、忠告したりすることはなかなか難しい。それは、注意や忠告をすることで友達関係にひびが入るのではないかと考えがちだからである。しかし、真の友情をはぐくむためには、注意や忠告をし合えるほどの信頼関係がなければならない。

集団での活動が盛んになる中学年のこの時期に、健康的な仲間集団を育成していくために、互いに注意し、忠告し合い、それを素直に聞き合える関係をつくることが大切であると考えます。

○本学級の児童は、今年度4月に開校した際、友達についての期待や不安が一番大きかったようである。1か月経ってクラスの人顔と名前も覚え、いろいろな人と話したり遊んだりできるようになった。これから様々な人間関係ができてくるであろう。

道徳の時間においては、意欲的に考えている児童が多いが、なかなか自信がもてず、発言する児童には偏りがある。また、「○○さんと似ていて〜。」とか「○○くんにつけ加えて〜。」と発言をつなげていくことが難しいので、自分の考えと比べながら目と耳と心で友達の考えを「聴く」ことを指導中である。

これは、本校の研究主題の中にある「自己実現」に向けての課題でもある。話し合いの中で、お互いの考えを理解し認め合うことで、自己肯定感や自己有用感を高め、自己指導能力を身につけさせる必要がある。

○本資料は、主人公の広子が、仲良しの正子から届いた定形外郵便の料金不足について、本人にそのことを知らせるべきかどうかを迷う話である。「教えるべき。」という兄の意見と、「教えない方がいいのではないか。」という母の考えとに揺れながらも、ひろ子は教えることを決心する。

友達だからこそ、どうすればいいのか思い悩む広子の心情を共感的にとらえさせながら、友達と互いに理解し、信頼し、助け合っていくこうとする心情を養うのに適した資料である。

○指導にあたっては、資料を2分割し、読み聞かせて提示する。その際、児童が状況を把握しやすいように場面絵やキーワードを黒板に貼る。前半の場面では、広子が正子からもらった絵はがきを喜ぶ気持ちに共感させる。また、兄と母の意見を聞き、広子が迷う場面では、児童にネームカードで意思表示をさせ、その理由を全体で話し合う。後半の場面では、中心発問を「広子は、どうして料金不足のことを教えようと決心したのだろう。」とし、広子の気持ちをワークシートに書かせる。この後の話し合いで、「友達である正子なら広子が正子のためを思って教えたことを分かってくれると信じて決心した。」というところまで児童の価値観が高まっていくようにしたい。そのための補助発問を準備しておく。

展開後段では、自分たちの生活を振り返ることにより、本時のねらいとする道徳的価値と生活経験をつなげていきたい。

この学習をとおして、4月に新しく出逢った友達や今まで一緒に過ごしてきた友達と、よりよい友達関係を築いていこうとする道徳的実践力につなげていきたい。

2 研究主題にかかわって

夢と志を持ち、自己実現をめざす児童・生徒の育成
～生徒指導の三機能を生かした授業・活動づくりを通して～

本授業は、研究主題のサブテーマ、「生徒指導の三機能を生かした授業・活動づくりを通して」を受けて設定した授業である。

本学級には、自分の考えを積極的に発表することができる児童と、自分の考えに自信が持てず、自分から発表しようとしないう児童がいる。そこで本授業では、二つ目の基本発問で心のものさしとネームカードを用いる。広子は「教えた方がよい」と「教えない方がよい」どちらの考えが強いと思うか、心のものさしの中にネームカードで示させ、そう考えた理由を全体で話し合わせる。その際には、個々が発表した内容を他の児童にも投げかけ、共感的な理解を示すことができるようにしたい。

3 本時のねらい

- 正子さんから届いた絵はがきに貼ってあった切手が料金不足だったことを知らせようと決心した広子の気持ちを考えることを通して、友達と互いに信頼し合い、ときには注意し合いながら、友情を深めていこうとする心情を育てる。


【本時で用いる言語活動】

- 言語活動・・・ワークシートに自分の考えを書き、それをもとに話し合う。
- この言語活動を通して、ねらいを達成するために工夫する手立て
 - ・一つ前の基本発問で、迷っている広子の気持ちを十分に話し合わせておく。
 - ・ワークシートの記入欄を吹き出しにし、「やっぱり教えてあげよう。だって・・・。」に続けて書かせることで、広子の気持ちになって書き、自分なりの考えをもてるようにする。
 - ・教えようと考えた理由について、お互いの考えを交流し、ねらいとする道徳的価値についての考えを深めていく。

4 準備物 場面絵 ワークシート 心のものさし ネームカード

5 学習過程

段階	学習活動	主な発問 (○と◎) 予想される児童の反応	指導上の留意点☆ 及び評価の観点★
導入 3分	1 学習内容に興味をもつ。	○手紙やはがきを書いたことがありますか。そのとき、どんな気持ちで書きましたか。 ・ 元気にしているかな。 ・ ～な気持ちを伝えたいな。 ・ 喜んでくれるかな。	☆手紙を書いた時の気持ちを思い起こさせ、資料への興味を高める。 ☆展開前半で、はがきを書いた正子の気持ちにつなげる。
展開 前半 29分	2 資料「大きな絵はがき」を聞いて考える。	○なかよしの正子からののはがきを読んでも、広子はどんな気持ちだったでしょう。 ・ きれいな景色だな。 ・ 正子さんと一緒に高原に行ってみたいなあ。 ・ うれしいな。 ・ 返事を出したい。 ・ 私のことを覚えていてくれてよかった。	☆定形外郵便について知らせ、資料の把握をしやすくする。 ☆資料提示の際は、T1が資料を範読し、T2が黒板に場面絵やキーワードを掲示する。 ☆T1が発問や指名をし、T2が板書をする。 ☆なかよしの正子からののはがきを喜んでいる広子の気持ちをおさえる。

		<p>○お兄ちゃんとお母さんの意見を聞いて、広子は迷っています。どうすればよいと思っているでしょう。また、それはどうしてでしょう。</p> <p>教えた方がよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教えないと、正子さんがまた同じ間違いをしてしまうかもしれないから。 ・ 教えなかったら正子さんのためにならないから。 <p>教えない方がよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正子さんが怒ってしまうかもしれないから。 ・ 正子さんはわざとしたわけではないから。 ・ せっかくはがきをくれたのに、正子さんをいやな気持ちにさせたくないから。 	<p>☆どちらが正しいのかを問うのではなく、兄も母も友達のことを思っている意見であることを踏まえた上で、何が本当に「友達のため」になるのかを考えさせる。</p> <p>☆ここでは結論は出さない。</p> <p>☆心のもさしとネームカードを用いて、どちらの気持ちが強いかを全員に意思表示させる。その後、理由を話し合わせる。</p> <p>Ⓢ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>どちらの理由も、 正子さんの気持ちを 考えているところが いいですね。</p> </div> 
		<p>◎ひろ子は、どうして料金不足のことを教えようと決心したのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このままだと、正子は他の人にも同じことをしてしまうかもしれないから。 ・ 教えた方が正子のためになるから。 ・ 友達だから。 ・ 正子のために教えたことをきっと分かってくれるから。 <p>Ⓢ 友達だから、教えない方がいいのではないのかな。</p>	<p>☆ワークシートに自分の考えを書かせた後、全体で交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>言語活動のポイント</p> <p>基本発問で話し合ったことをもとに、ワークシートの吹き出しにひろ子の考えを書かせることで、何が本当に友達のためになるのかを考える。</p> </div> <p>★友達との心のつながりの大切さを自覚し、正子に本当のことを伝えようとする広子に共感することができたか。</p>
<p>展開後半10分</p>	<p>3 自分たちの生活をふりかえって考える。</p>	<p>○これまでに、「友達のために」と思って何かをしたことがありますか。その時はどんな気持ちでやりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廊下を走っている友達に、危ないから注意をしたら、きちんと聞いてくれてほっとした。 ・ 「分からない問題の答えを教えて。」と言われたけど、その人のためにならないから答えを教えずにヒントをあげた。 ・ 間違えていることを教えてあげたら、「ありがとう。」と言われてうれしかった。 	<p>☆自分の経験を発表したり、友達の経験を聞いたりすることで、ねらいとする価値と自分たちの生活を近づける。</p>
<p>終末3分</p>	<p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>○心のノート P. 45「友だちづくりのひけつを漢字から学ぼう」を読みましよう。</p>	<p>☆これからよりよい友達関係をつくっていかうとする意欲につなげる。</p>

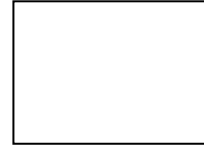
(注1) 生徒指導の3機能を生かした授業づくり

- Ⓢ ……自己存在感を与える
- Ⓢ ……自己決定の場を与える
- Ⓢ ……共感的人間関係を育成する

大きな絵はがき

正子からのはがき

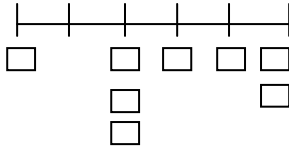
- ・きれいな景色だな。
- ・正子さんと一緒に高原に行ってみたい。
- ・うれしいな。
- ・返事を出したい。
- ・私のことを覚えていてくれてよかった。



広子は迷ってしまいました。

教えたほうがよい

- ・教えないとまた同じ間違いをする。
- ・正子さんのため。



教えないほうがよい

- ・正子さんがおこるかも。
- ・わざとではない。
- ・正子さんをいやな気持ちにさせたくない。

料金不足のことを教えよう

- ・このままだと、正子は他の人にも同じことをしてしまいかもしれない。
- ・教えた方が正子のためになる。
- ・友達だから。
- ・正子のために教えたことをきつと分かってくれる。

